

今月の断酒表彰

☆ I・S さん 吹田支部 断酒六年

☆ A・T さん 吹田支部 断酒三十三年



平成 30 年 2 月 1 日発行 No.180

編集・発行 事務局・広報部

<http://suitashi-danshukai.net>

断酒表彰おめでとうございます。

ますますのご活躍を期待いたします。

飲酒して再度断酒に挑戦することは大変な困難を伴うことは明らかなので、できれば最期まで現在の状態を保っていきたく願っている。そのためには、断酒会の例会出席を欠かすことはできない、と思っている。

断酒に思う (84)

私の断酒

吹田支部 A・T

止めるつもりはなかった。止めたくはなかった。止めることがどういう状態か実感できなかった。これらは私が初めてアルコール専門医の診察を受けた際に、直ちに酒を止めなさい、との宣告に対する気持であった。従って、当然のことながら、医者のおりに酒を止めることはなく、私にとっては極めて少量ではあったが、毎日飲み続けていた。

ただ、自分に負目を感じている部分も確かにあったので、通院と断酒会への出席を欠かすことはなかった。三週間ぐらい経過したとき、或る日突然、今日は酒を止めようという気分になり、その通り実行して現在に至っている。

今日は止めようというところに私の決意、決心といったものは全く関与していない。どうしてそういう気分になったのか、自分自身には全く判らないが、敢えてその理由を探れば、通院及び断酒会において何か感じる場所があったのだと思う。

幸いにして酒を止めることをスタートさせたが、その道程は決して平坦なものではなかった。しかし、このことは、本人に酒を止めなければという強い決意がある訳でもなく、酒を飲み始めてから原則一日も欠かすことがなかったものをゼロにする訳であるから、至極当然といわなければならない。このような状態ではあったが、とりあえず断酒会に出席し続けることを実行した。そうする内に、私が酒を忘れてしまった訳ではないが、酒の方から徐々に遠のいていった様な気がする。

思えば、私の酒はある程度は体質的なものが関係していたかも知れないが、本当のところは酒に対する意地きたなさの方が大きく関係していると思う。それが度を越した大量飲酒につながったことは明らかである。

断酒を始めてからある期間が経過したが、前述したように決して酒を忘れてしまった訳ではない。再

【今月の「指針と規範」】

断酒会規範 八

断酒会は酒害相談はもとより、啓発活動を通して社会に貢献する

断酒会員の誠意ある説得で断酒会につながり、現在、「断酒幸福」を自らの手にした人は数え切れない。

われわれは断酒できた喜びを断酒会に感謝すると同時に、時間と労力をいささかも惜しむことなく、われわれのために誠意の限りをつくした先輩会員に心から感謝している。そして、そうした人間愛に充ちた行動が一部の会員に限らず、断酒会員全員の使命であり、断酒会の伝統であることを知った。

会員同士の一体感が自らの断酒を可能にし、断酒会を支える最大の力になっていることも知った。また、その一体感が会員だけに限らず、広く酒害者同士にもあるべきものだとして理解し、現在、積極的に酒害相談活動に取り組むようになった。

従って、断酒会は自らの断酒のみならず、酒で苦しんでいる地域の酒害者のために何をすべきかを常に考え、積極的に援助活動をする組織である。援助活動の大半は酒害相談であり、われわれの義務といえるものである。

またわれわれの活動は、酒害相談活動に止どまるものではない。

近年、アルコール依存症に対する社会の関心が高まり、われわれ断酒会員の役割は、酒害者だけが対象ではない時期になっている。

断酒会は元来、酒害者が自らの意思によって酒を断つ組織である、という認識で現在まで成長してきたが、もう一歩踏み込んで考えると、断酒会は酒害者の最後のひとりも残さないという大目的を持つ組織であり、それは断酒会を必要としない社会をつくることでもある。

そうした悲願を達成するためには、酒害相談のみな

みんなの広場

らず広く社会に向って酒害の怖ろしさを伝え、酒害者をつくらないための酒害啓発活動を行う必要がある。酒害の知識のない人、誤った知識を持っている人たちが啓発することで、過去、社会に何の貢献もできなかったわれわれが、社会に貢献し、社会にとっても必要な人間になることができる。

断酒会は廃酒思想を持っていない。社会に酒のあることを容認しながら、自らの酒を否定する組織として発足したために社会に受け入れられた。断酒会は会員が姓名を名乗るという原則を持つことによって、個々の存在が知られ、地域の多くの酒害者の断酒を可能にした。断酒会活動の最後にあるものは、酒害者をつくらないための啓発活動である。

問題飲酒が始まっているのに、自分を適正飲酒者だと思っている人がいる。家族は悩んでいるのに当人は何の不安もない。そうした家庭に酒害の実体を伝えるのも断酒会の仕事である。

挫折が原因で一時的に酒を乱用している人を、われわれと同じ酒害者にしないため、酒害の正確な情報を与えることも断酒会の役目である。

適正飲酒ができていても、将来に不安を持っている人や家族がいる。そうした人たちの相談に乗り、転ばぬ先の杖になるのも断酒会の役割である。おそ

まだ飲酒経験のない若者たちに酒害の怖ろしさを伝えるのも、反面教師としての断酒会員の役割である。学校教育だけでは本当の怖ろしさが充分理解されないと思うからである。

そうした幅広い活動がなされることによって、断酒会の存在価値が広く社会に浸透し、今後の断酒会活動をより容易にする。

(指針と規範 P87～P90)



平成30年1月2日吹田市断酒会初詣 於：片山神社



〈訃報〉

南千里支部のW・Mさんが、1月28日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

〈みんなの広場〉では会員家族のみなさんからの投稿を掲載していきます。

近況報告、趣味の披露、読書感想、映画・ビデオ鑑賞の印象、会へのご意見等々、発表形式は、散文、短歌、俳句、川柳、漫画、イラストなんでも結構です。奮って応募して下さい（広報部）

